

---

# Bクラス代表の卑怯者に憑依した話

どりーむ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

Bクラス代表の卑怯者に憑依した話

### 【Nコード】

N9225X

### 【作者名】

どりーむ

### 【あらすじ】

卑怯者と名高いBクラスの代表に憑依した主人公が女装されるのを防ぐお話。

Bクラス戦後の話もしますよ！

## 0 問目 状況把握（前書き）

おそらく誰も思いつかなかったと思います、始めました。

ではどうぞ。

## 0 問目 状況把握

全く、残念すぎて涙が出てくるよ。

どうやら俺は俗に言う『憑依』というやつを経験してるらしい。

憑依した人物は根本恭二。

バカとテストと召喚獣とかいうライトノベルのキャラクターの一人らしい。

二次創作でしか読んだことないがこいつはかなりの卑怯者らしい。

3

しかも主人公達Fクラスに試験召喚戦争、ようはクラス対抗みたいなモンだな。  
それに負けて女装させられていたはず……

おいおいふざけんな！  
女装なんて絶対嫌だぞ俺は！！

こうなったら原作なんて関係ねえ！  
絶対に女装から逃げ切ってやる！！

Bクラスの生徒達は語る。

二年に上がった時からあいつは何かを取り憑いたかのように人が変わった。

と。

## 0 目次 状況把握（後書き）

感想お待ちしています。

追記：ご指摘を受け、文体を修正しました。

## 設定（前書き）

設定です。

随時更新予定。

10/31にご指摘を受け、一部設定の修正。

## 設定

憑依後の根本恭二

憑依してからなぜか顔が凛々しくなった。

髪が気に入らなかったらしく、黒く染めてオールバックにした。

憑依してから主人公が身体を鍛え始めた為、少しずつ体力が付き、細く引き締まった身体になっていく。

Cクラスの小山とは別れた。

点数

数学が500点代で化学と物理は400点代。

現国と英語は300点代

古文と歴史は90点代

後は原作と変わらず。

見てわかる通り理数系が得意。

召喚獣

憑依後の根本がデフォルメされた感じで傭兵の様な服装。



武器はガンソード。

銃弾一発発射につき5点消費されていき、3分に一回オートリロードされる。

オートリロードは銃弾一発につき2点消費されていく。

腕輪

#### 【覚醒】

150点消費で発動。

召喚獣の能力が底上げされ、銃弾発射とオートリロードの消費点数がなくなる。

この状態の時は召喚獣のダメージが自分にも発生、いわば観察処分者と同じ状態となる。

## 設定（後書き）

感想お待ちしています。

1 問目 校門前にて。(前書き)

とりあえず本編一話投稿。

鉄人って難しいですね。

## 1 問目 校門前にて。

「おはようございます西村先生」

「……………お前まさか根本か？」

よお、俺だよ。

卑怯者と名高い根本に憑依した俺だよ。

今校門前に立ち構えていた鉄人こと西村先生に挨拶した所だ。

どうやら驚いてるみたいだな。

まあ無理もないよな、俺だってこれ本当に根本か？って思ったもん。

「相談ならいつでも来いよ。茶くらいはいれてやる」

どうやら俺の事を心配しているみたいだ。

「機会があつたら世話になります。それよりも先生、こんな所にずつと立っているのですから生徒に用事でもあるのでしょうか？」

「あ、ああ……………」

あの鉄人がここまで驚くとは……………

こんなに驚かれるとなんだか大掛かりな悪戯が成功した時並みに嬉しさがこみ上げてくるなあ……………

正気に戻った鉄人が俺に渡してきたのは一つの封筒だった。  
たしかこいつにクラス先が入ってるんだよな。

「根本」

「なんででしょうか？」

「俺は今までお前のやってきた事が本当に残念だと思っていた。現  
に今脅しをかけてやろうと思っていたからな」

おい、今生徒を脅すとか言いやがったぞ。  
こんな教師がいて大丈夫なのか文月学園。

「だがな、今のお前を見て気が変わった。まるで人が変わったかの  
ようだ。いや見た目だけではない、内面もだ。それに確固たる意志  
を感じる」

おいおいまずいんじゃないか？

憑依生活初日に感づかれるってどうなのよこれ。

「だからお前にはこう言っておく。高校生活、楽しむんだぞ。勿論  
勉強にも力を入れるように。それでは自分のクラスに行け」

なんだ、鉄人って意外といい人じゃないか。  
そして俺は自分のクラスに向かった。

結果はBクラス、もちろん代表だぞ。

1 問目 校門前にて。(後書き)

感想お待ちしています。

追記：ご指摘を受け、主人公の描写を少し修正しました。

追記そのに：ご指摘を受け、文体を修正しました。

## 2 問目 クラスにて。(前書き)

一ヶ月に4回投稿するつもりです。



## 2問目 クラスにて。

「ここがBクラスか……」

よお、俺だよ。

卑怯者と名高い根本に憑依した俺だよ。

今Bクラス前にやつと着いた所だ。

ちなみに現在時刻は8:20分。おかしいな8時にはクラスに着いてる予定だったんだが……

遅れた理由としてはたどり着く前にいるんな教師に呼び止められたのが原因だろうな。

なんかすげー心配になった。

これ絶対に憑依されるのバレるだろ、と

あとなんか女子が1人俺の前に現れるなりいきなり今の俺をすげー拒絶しだした。

「こんなの恭二じゃない！」

とか

「昨日までの恭二に戻ってよお……」

とか言ってきやがった。

それにしてもこいつ妙に馴れ馴れしい。

うん、俺こいつ嫌いだ。

なんかヒステリックなオーラ出してるし。

とりあえずお前は俺のなんなんだとかうざったいから近づくなとか言っただけなら逆ギレしてキーキー言い出したから逃げてきた。

なんだっただなあいつは。

そして冒頭に戻るってわけ。

「さて、どんな一体反応をするのかね……」

そう呟いて俺はドアを開けてBクラスに入っていく。

なんだ、なかなかいい設備じゃないか。

まあ来る途中に見かけたAクラスの設備と比べると見劣りはしてしまいが……

Bクラスでここまでの設備なのだからDクラスでごく普通の高校の教室と同じって感じかな。

そしてクラスの奴らの視線が痛い……

もう視線耐性は付いたとか入る前にふと思ったけどこれは無理だ。圧倒的数の視線には負ける、これは負けるに決まってる。

なんとか視線に耐えながら空いている席に座る事が出来た俺はまだ襲い来る視線から逃げ出す為に一眠りする事にした。

てか窓際一番後ろが空いてるってどういう事だよ。普通ありえねーだろこんな良席空いてるなんて。

「……………てください……………」

ん……………？

「起きてください……」

あ、もしかして授業中か。

これは新学期初日からよろしくない事をしたな……

「今は自己紹介をして残りは貴方だけですよ。」

「すみません、疲れが溜まっています。」

適当に言い訳を言い、俺は立ち上がりクラスの皆を見回して話を始める事にした。

「根本恭二、一応Bクラス代表だ。よろしく。」

俺が根本恭二だとわかった途端、クラスが騒がしくなった。

「ええ！？根本!？」

「こいつ根本なのか!？」

「でも根本がクラス代表かよ……」

「なんだかっかしい……」

おい最後おかしかったぞ。

まあいい、俺は話を続ける事にした。

「試験召喚戦争についてだがBクラスでこの設備なんだ、十分に満足できると思う。だから試験召喚戦争はこちらからは仕掛けない方

向で考えている。だが仕掛けられたらその時は全力を持って返り討ちにしてやるうじゃないか。」

皆もそう思っていたらしく割とあっさり納得してくれた。すると一人の男子が俺に質問をしてきた。

「お前……一体どうしたんだ？」

随分とアバウトな質問だな。

さてなんと答えればいいかな……

おっと、大事な事を忘れていた。

これやっておかないと間違いなく皆ついてきてくれられないからな。

「今までにやってきた事だが……本当にすまなかったと思っている。これからはそんな事をしないように真つ当にやっていくつもりだ。皆の弱みも全て手放した。見た目については俺なりのけじめのつもりでやった事だ。」

まあ全部身に覚えがないから理由は全てでっち上げなんだがな。でも酷かったぞこいつ。

いろんな人の弱みが書いてある手帳みたいな物があったんだがすげーみっしり書いてあるんだもん。すげードン引きした。

だからこの程度で許されるとは俺は思っていない。まあ建前というやつだ。

俺は言いたい事を言いきって席に座る。

クラスの皆は呆気に取られてるな。

しばらくこの空気が流れた後、先生が上手く纏めてくれた。

そしてFクラスがDクラスに宣戦布告をしたらしい。

たしかDの次はBクラス、つまり俺達に宣戦布告をしてくるはずだ。

うる覚えだが奴の戦術も知っているし対策立てておかないとな……

……

## 2 問目 クラスにて。 (後書き)

感想お待ちしています。

追記：ご指摘を受け、主人公の描写を少し修正しました。

**3 問目 B クラスと屋上にて。(前書き)**

バカテストはやるべきでしょうか？



### 3 問目 Bクラスと屋上にて。

「Bクラス代表、根本恭二を呼んでもらえますか？」

「何か用か？」

「貴方ではなくBクラスの代表さんをお願いしますのですが……」

「俺が……根本なんだが……」

「うっそおおおおおおおおおお！？」

よお、俺だよ。

卑怯者と名高い根本に憑依した俺だよ。

さすがに驚かれすぎて飽きが来ているのが自分でわかる。

どうやらこの人は宣戦布告の使者を任されたらしい。

わざわざご丁寧に「CクラスはBクラスに試験召喚戦争を申し込めます。」と言ってくれたんだからすごく礼儀正しい方だと思う。

「開戦時刻はいつなんだ？」

「今日の午後からだそうです。」

はて……

今日の午後と言ったら………

むむ、いい事を思いついたぞ。

我ながら素晴らしい案だなこれは。

「あ、あのお………」

「あ、ああ悪い。少し考え事をしていてな。了解した。Bクラスは試験召喚戦争を受けるよ。」

危ない危ない。

どうやら顔に出ていたみたいだな。

俺が了解したのを確認するとポニ子さん（たった今命名した）はわざわざ「ありがとうございます。」とペコリとお辞儀をして自クラスに戻っていった。

それにしても礼儀正しかったな。

使者なんだからもう少し口調を強くしてもいい気がするんだが……

……

さて、開戦までにやる事を済ませておかないとな……

そして昼休み。

俺はFクラスへと向かっている。

なぜそんな所に向かっているのかって？

Fクラス代表、坂本雄二と話をする為さ。

Fクラスに付いた俺は設備の酷さに驚きを隠せなかったが坂本がクラスにはいなく、  
数人のクラスメイトと屋上へ向かったと聞いて俺は少し駆け足で屋上へと向かった。

ん、Fクラスの反応？

そんな事言うまでもないだろ？

そして屋上に着いた俺はドアを開けた。

「君の事を好きにしたいと思っていました!!」

.....なんかバカなオーラを出した奴がピンク髪の子  
に欲望をカミングアウトしていた。

どうやらお取り込み中のようなようだ。

残念だが少し時間を置いてからまた来るとしよう。  
俺は開けたドアを閉め、自クラスに戻るうとした。

が

「え、ちょ、そこで見てた人戻ってきて！違う！違うからああああ  
あああ！！！」

バカなオーラ、いやもうバカでいいかな。

バカのくせにこういう所は鋭いのか。

俺は閉じたドアを開け、すぐ近くまで歩いていく。

すると体格のいいツンツン頭がこちらに話しかけてきた。

「悪いな、いきなり見苦しい所を見せちまって。バカだから仕方ないが許してやってくれ。バカだから」

「ちょっと雄二！人をバカバカ言うんじゃない！！！」

「いや、気にしてないから大丈夫だ。それにこいつはバカなオーラが身体から滲み出ているからな。バカなオーラが。」

「初対面の人にそこまで酷い事を言える君にはびっくりだよ！！！」

バカはツッコミススキルが高いんだな。

これはバカを見直さないといけないな。

そしてどうやらこいつがクラス代表らしい、なら話は早い。俺は早速本題に移らせてもらおう事にした。

「Fクラス代表の坂本雄二か？」

なんとなく雰囲気で察してくれたのか坂本は真面目な顔になり俺の問いに答える。

「そうだが……お前は誰だ？一年時にお前のような奴はいなかったぞ。」

あー、せっかくシリアスな感じになってきたのにこの後の展開が読めてしまった。  
でも言わないと話進まないしな……

「Bクラス代表……根本恭二だ。」

.....

しばらくの沈黙。

そして屋上に集まっていた俺以外の奴らが息を揃えて叫ぶ。



### 3 問目 B クラスと屋上にて。(後書き)

ポニ子さんの説明はまたの機会に……

それでは今月の更新はこれで終わりです。

感想お待ちしております。

追記：ご指摘を受け、主人公の描写を少し修正しました。

追記その二：ご指摘を受け、文体を修正しました。

感謝とアンケート（前書き）

追記：注意点追加

追記その2：受付期間の縮小



## 感謝とアンケート

作者のどりーむです。

累計PV15000累計ユニーク2300突破、そしてお気に入り100件数突破ありがとうございます。

10000までは1ヶ月程かかると思っていたので驚きが隠せません。

まだまだ素人ですが頑張って執筆して行こうと思います。

そして試しにアンケートをとってみようと思います。

内容はBクラスの生徒キャラクター案です。

やはり話はBクラスがメインとなっていますのでレギュラーキャラを作っに行こうと思いましたが皆さんからキャラクター案を聞いてみようかと思いましたので……

以下がキャラクターを作り出す時の注意点となります。

- ・得意科目の上限は420前後
- ・得意科目数は最高2つ
- ・苦手科目の最低限度は110前後
- ・苦手科目数は最高2つ
- ・腕輪は余りにもチートすぎない事
- ・キャラ設定を難しくしすぎない事（ある程度はOKです。
- ・総合科目の点数は2500～3300点の中で決めてください。

都合上、設定を少し修正するかもしれませんがその所はどうかご了承ください。

注意点は以上です。

色々決めつけて申し訳ないです。

もし、点数についておかしい所がありましたらご連絡して貰えるとありがたいです。

アイデアの投稿方法は

- ・感想欄の一言の欄
- ・私宛のメッセージ

この二つの方法でお願いします。

誠に勝手ながら受付期限は11/3末に縮小させていただきます。

本当に申し訳ございません。

皆様からのアイデアお待ちしております。

それではこれからも「Bクラス代表の卑怯者に憑依した話」をよろしく願います。

**感謝とアンケート（後書き）**

リンム様、くじら様、t i s m o 様

感想ありがとうございます。

#### 4 問目 屋上にて。(前書き)

Dr.クロ様、すいみん様、tomotomo様、又フウ様、流浪人様西木さんの大貝様、徒花様、神崎ミキ様、アルカイナ様、主人公を引き立てるのは脇役！様、RIA様、まあ様感想ありがとうございます。

#### 4問目 屋上にて。

「……そろそろいいか？」

「え、ちょ、いや、ええ！？この人根本なの！？」

よお、俺だよ。

卑怯者と名高い根本に憑依した俺だよ。

どうやら皆落ち着いてきたみたいだな。

まだバカが慌てふためいているがバカだし大丈夫だろう、うん。

そして坂本が俺の問いに答える。

「あ、ああすまない。それで一体Bクラスの代表様が底辺クラスのFクラス代表に何の用だ？」

「試験召喚戦争の件についてだ。お前ら今日の午後からDクラスと戦争するんだろ？」

「……………ああ。」

どうやら警戒されているみたいだ。

まあ元は卑怯者の根本だし仕方ないよな。

「そんなに身構えなくてもいい。実は俺達BクラスもCクラスから今日の午後から試験召喚戦争を申し込まれているんだ。」

「なんだと……？それがどうしたっていうんだ？」

「簡単な話だ。俺達と手を組まないかと聞きに来たんだ。」

「すごいじゃないか！Bクラスと共闘すればDクラスなんて楽勝だよ、雄二ー！！」

バカが復活したみたいだ。  
話を聞いてバカみたいに喜んでいる。

だが坂本は簡単には納得しないはずだ……

「なぜだ？普通に考えるなら戦力の高い方を、つまりDクラスと共闘した方がいいんじゃないのか？」

まあ、その通りだよな。

だがその返答は予測済みだ。

「坂本、お前昔は『神童』と呼ばれていたんだろ？だったら当然頭も回るはずだ。それに弱い戦力に超一流の軍師の組み合わせは普通に強敵と戦闘するよりも戦いづらい。そう思ったんだよ。それに……」

「それに……？」

俺は一呼吸置いてからニヤリと笑い、口を動かす。

「Fクラスと組んだ方が圧倒的に面白いからな。」

それを聞いた坂本の顔が啞然となる。

しばしの沈黙。

そしてその沈黙は坂本の笑い声で終わりを告げる。

「っはははははははははは！！根本！いいぜ、共闘しようじゃねえか  
！！！」

そう言っつて坂本は手を伸ばしてくる。

どうやら握手のつもりらしい。

俺はその手を握り感謝を述べる。

「ありがとう。坂本、感謝する。」

「俺の事は雄二でいいぜ。ついでにここにいる奴も紹介しておこう。」

「そう言っつて坂本……いや雄二が左から順に今いるメンバーの紹介をしてくれた。」



「こいつは島田美波。ドイツからの帰国子女だ」

「よろしくね」

……………やっぱり絶壁だな。

「こいつは土屋康太、寡黙なる性職者とはこいつの事だ」

「……………よろしく」

本当に口数少ないんだな。

これでよくコミュニケーションがとれるよなあ……………

「こいつは木下秀吉、演劇部のホープだそうだ」

「よろしくなのじゃ、ちなみにわしは男じゃぞ」

さっきの絶……………島田よりも女らしく見えるのはなんでだろう……………第三の性別【秀吉】は伊達じゃないって事か。

「こいつは姫路瑞希、本来ならAクラスにいるはずだがちょっと事情があつてFクラスだ」

「よろしく願いますね」

……………うぬ、素晴らしいメロンだ、眼福眼福。

「そしてこいつが吉井明久、とにかくバカ、救いようのないバカだ」

「うっさい、バカ雄二！雄二だつてFクラスだろうが！！！」

しかし溢れんばかりにバカなオーラが滲み出てるなあ。馬鹿とはわかってたけどまさかここまでとは思わなかったな。

でも感激だな。

こうして本の中の人物と話せるんだからな。

「それじゃあ俺も改めて自己紹介するぜ。根本恭二、Bクラス代表だ、よろしく」

挨拶の終わった俺達は早速戦争に向けて作戦を立て始める事にした。

#### 4 問目 屋上にて。(後書き)

いい感じな仲になってきてますがしっかりと悶着起こす予定です。

感想お待ちしております。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9225x/>

---

Bクラス代表の卑怯者に憑依した話

2011年11月2日12時44分発行